

幸福駅 老朽化で改築

帯広市は来年度、市内の観光名所、旧国鉄広尾線幸福駅を建て替える。駅舎は木造で建築から57年が経過し、老朽化が激しいことが理由。さらに今年、テレビ番組をきっかけに起きた同駅のブームから40年の節目で、市は「幸福駅再生プロジェクト」として周辺施設も整備し、同駅の観光拠点化を進める。

帯広市来年度 周辺整備し観光拠点化

同駅は、広尾線愛国駅と共に「愛の国から幸福へ」のキャッチフレーズで知られ、1987年の廃線後も多くの観光客が訪れている。「恋人の聖地」にも認定され、カップルで模擬結婚式を挙げる「ハッピーセレモニー」などのイベントも開かれている。

駅舎は耐震補強を行うことも難しいほど老朽化しているため、一度取り壊して今と同じ場所に建て替える。外観や雰囲気は現在と同様にする。ホームにあるディーゼルカー内をパネルや写真で観光情報を発信できるスペースにする他、駅舎西側の「幸福ふれあい公園」にハッピーセレモニー用のステージを用意することも計画している。

今年秋をめどに改築、整備を終えたい考えで、新駅舎のお披露目に合わせて、ブームから40周年の記念イベント開催も予定する。事業費は計3300万円で、新年度予算案に盛り込んだ。

市は「今のたたずまいを残し周辺の魅力を向上させていきたい」と話している。



建て替えが予定されている幸福駅（折原徹也撮影）